

知って納得！がん治療

主催／静岡新聞社・静岡放送 特別協賛／スルガ銀行

共催／静岡県立静岡がんセンター、三島市、長泉町、裾野市、函南町、清水町、三島市民文化会館

県立静岡がんセンター公開講座「知って納得！がん治療」(静岡新聞社・静岡放送主催、県立静岡がんセンター、三島市、長泉町、裾野市、函南町、清水町、三島市民文化会館共催、スルガ銀行特別協賛)の第1回がこのほど、三島市民文化会館で開かれました。開講式に続き、山口建総長、宮木裕司検診センター医長、秋山靖人免疫治療研究部長による講演が行われました。その概要を紹介します。

(企画・制作／静岡新聞社営業局)



県立静岡がんセンター 総長

けん 山口 建氏
やまぐち けん
1974年慶大医学部卒。99年国立がんセンター研究所副所長、同年宮内庁御用掛(併任)。2002年から現職。00年高松宮妃癌研究基金学術賞、14年アボット賞受賞。研究領域は乳がん治療、腫瘍マーカー、がんの社会学。

がんは身近な病気

我が国では二人に一人が一生のどこかでがんと診断されます。がんの6割は完治可能で、たとえ完治できなかつたとしても長期間、がんと共に暮らすことができるようになります。現在、日本の人口、約1億2000万人のうち約500万人はがんを体験した患者さんたちです。

最善のがん治療を受けるには

放射線などが含まれます。がんを防ぎ、がんを落とさないためには、予防、がん検診、体調管理が大切です。

がんを防ぐ努力

予防の第一歩は、可能な限り、発がん因子を避けることです。そのため、守っていただきたい生活習慣などが含まれます。放射線などが含まれます。がんを防ぎ、がんを落とさないためには、予防、がん検診、体調管理が大切です。

がん検診ー症状のない時にこそ受けるものー

がんは誰もがなり得る

厚生労働省の統計では、全国のがんの年間死亡者数は、男性の胃がんがおよそ3万2000人、肺がんは5万2000人、女性は乳がんが1万3000人、大腸がんが2万1800人で、年々増えています。生涯のうち二人に一人ががんにかかるといわれています。そこで、がんによる死亡を減らすためにがん検診が推奨されています。

検診結果が異常と出たら

厚生労働省の検診の指針は今年一部変更がありました。胃がんの検診はエックス線検査か内視鏡検査のどちらかを選ぶことも場合によつてはできるようになりました。また、たくさん長年喫煙して「1日の喫煙本数×喫煙年数」が600以上だと、肺がんになる危険性が高まります。大腸がんは便の潜血検査ですが、見ても分からないような微量の出血でも診断で



県立静岡がんセンター 検診センター 医長

みやぎ ゆうじ
宮木 裕司氏
1991年、医師免許取得。岡山大学医学部附属病院、広島市民病院、高知県立中央病院などで、産婦人科臨床医として一般的に産科、婦人科医療を行う。2005年から現職。産婦人科専門医。医学博士。

習慣があります。まず、禁煙は最も大切です。お酒は控えめに、1日に日本酒なら1合、ビールは中瓶1本以下にしましょう。食事は、塩分や脂肪分を控えめにし、和食がお勧めで、腹八分目、食べ過ぎないようにしましょう。食物の中で、野菜や果物はがんの予防に役立つので、毎日、小さな握りこぶし5つ分の量を取るよう心掛けてください。軽い運動も大切で、早足で一日合計約30分程度歩くように心がけてください。身体や食事の

最善のがん治療を

清潔度もがん予防に役立ちます。生活習慣以外では、ピロリ菌やC型肝炎ウイルスも薬剤で除去することが出来るようになりました。人々にとって、がんの遺伝も心配です。「自分はがん家系の一員だ」と信じている人も多いでしょう。しかし、多くの場合、それは誤りです。今、日本では二人に一人ががんにかかるため、両親、兄



県立静岡がんセンター 免疫治療研究部 部長

あきやま やすと
秋山 靖人氏
1984年徳島大学医学部卒。89年から国立がんセンターのリーサーレジェント、99年から国立がんセンター研究所主任研究官としてがん免疫療法の臨床試験を実施。2002年から現職。進行がん患者に対する免疫療法を橋渡し研究を行う。

がんの新しい免疫療法

免疫療法による治療

免疫とは「疫を免れる」という字の通り、生来生物が持つ、病気や細菌等から自分を守る仕組みのことです。そして、がんには免疫療法という治療法があります。

新薬の効果と課題

まず免疫療法には養子免疫療法という、がんを攻撃するT細胞を増やして治療する方法があります。特に、メラノーマという皮膚のがんに有効です。また、B細胞が作り出す抗体による治療もあります。この抗体は体の細部にまで浸透して、がんの増殖や他臓器への転移を抑える効果があります。免疫療法には、がんのワクチンとして使える腫瘍の抗原が少なく効果が弱いという問題点

ち着いて、学んで、行動、豊かな心、スタッフ、家族、社会を味方に「となります。まずは冷静に、がんについて簡単な知識を得、がんから逃げないようにしましょう。豊かな心は感情を制御するのに役立ちます。一人がんと向き合うことは避け、医療スタッフや家族や社会の人々と一緒にがんを闘いましょう。

がんの患者さんや家族は多くの悩みを持ち、負担を感じるものです。医師の説明が理解できないなどの「診療の悩み」、がんの症状や治療に伴う副作用や後遺症などの「身体の苦痛」、不安、生き方などの「心の苦悩」、そして、家計、仕事などの「暮らしの負担」などがあります。

このような悩みや負担を少しでも和らげるため、静岡がんセンターでは「がんよろず相談」を運営しています。対面あるいは電話で相談に応じ、年間約1万2000件の相談に対応しています。困ったときには活用してください。

タワーンミーティング 質疑応答

会場では、当日寄せられた質問を中心に、質疑応答が行われました。その一部を紹介します。

Q 今、話題になっている免疫療法の一つ、免疫チェックポイント阻害剤は、投与して大丈夫ですか？

秋山 この薬剤は、現在、手術が不可能な皮膚がんの一種である悪性黒色腫や一部の肺がんが保険診療の対象になっています。臨床試験が進み、治療効果が確定したら、使用できる範囲が広がっていくはずです。

Q かかりつけ医は、どう見つけたいですか？

山口 身近な診療所で、相談しやすい医師が通っていると良いです。専門領域にはこだわらなくて良いです。かかりつけ医は、病状に応じて適切な専門医を紹介してくれますので、ぜひ持つよう

ください。現在この抗体新薬を使って、多くの製薬会社が世界中で臨床試験を行っているほどです。がんの免疫療法は、これからも進歩し続けていくでしょう。

がんは、遺伝子の変異を持つ細胞が増殖する病気です。当センターでは2年前から「プロジェクトHOPPE(ホープ)」という、がん細胞の遺伝子の解析を行う臨床研究を行っています。この新薬に関するより高い治療効果や副作用について有用な情報を探るためにも、今後も一層力を入れていきます。